

一般研修:臨床発達支援部門

主要題目	臨床発達心理士に求められる資質・能力	資質・能力を高めるための研修要点	主要項目とキーワード
<p>【アセスメントの専門性を高める】</p>	<p>臨床発達心理士にとって必要な包括的アセスメントを実施する技能を有し、それらを用いて対象児者を理解し、抱える問題を把握することができる。</p>	<p>【アセスメントの方針】 臨床発達心理士における包括的アセスメントの考え方に沿って臨床発達の実践を遂行する。</p>	<p>(臨床発達心理学の基本理念) (アセスメントについての基本的考え方) 包括的アセスメント, 生態学的視点, テストバッテリー, フォーマルアセスメント, インフォーマルアセスメント</p>
		<p>【領域別のアセスメント】 自分の実践において対象児者を理解し、問題を把握するために必要なアセスメントを実践できる。</p>	<p>(発達のアセスメント) ブラゼルトン新生児行動評価(NBAS), 津守稲毛式乳幼児精神発達診断法, KIDS乳幼児発達スケール, 絵画語彙発達検査(PVT-R), 新版K式発達検査2020, ベイリー乳幼児発達検査, その他発達検査 (知能のアセスメント) ウェクスラー式知能検査田中・ビネー式知能検査K-ABC心理・教育アセスメントバッテリー (言語・コミュニケーションのアセスメント) ITPA言語学習能力検査 (適応行動と情緒のアセスメント) Vineland適応行動尺度, 親子関係診断テスト, 投影法, その他人格検査/性格検査 (感覚・運動のアセスメント) フロスティック視知覚発達検査 (医学・生理学的アセスメント) (発達障害のアセスメント) M-CHAT, ADOS, ADI-R, PARS-TR, ASRS, CAARS, SP, STRAW-R, LDT-R</p>
		<p>【生涯発達段階のアセスメント】 生涯発達段階ごとに、その発達状況を適切に把握できるアセスメントを理解し、自分の分野で、対象児者の発達段階に応じたアセスメントを実践できる。</p>	<p>(乳幼児期のアセスメント) (児童期のアセスメント) (青年期のアセスメント) (成人期のアセスメント) (高齢期のアセスメント)</p>
		<p>【報告書の作成とフィードバック】 包括的アセスメントの結果を統合し、適切に文書化し、本人(および家族)にフィードバックする。</p>	<p>・報告書の作成 ・フィードバック面接 ・心理教育</p>
<p>【臨床発達支援の専門性を高める】</p>	<p>臨床発達心理士として働く際に必要な臨床発達支援についての専門的な知識と技能を理解し、それらを適切に用いて対象児者への支援を行うことができる。</p>	<p>【分野別の臨床発達支援】 自分の実践において必要な臨床発達支援を身につける。</p>	<p>(障害に関する支援) <知的障害> <ASD>TEACCHプログラム, ESDM, JASPER, SCERTS, ABA, INREALアプローチ, ソーシャル・スキル・トレーニング(SST), DIR/Floortime <ADHD> <LD> <その他障害> <家族支援>ペアレントプログラム, ペアレントトレーニング, PCIT, CARE (心理社会的問題に関する支援) 音楽療法, 絵画療法, 回想法, プレイセラピー, ラポート, 生活の質(QOL), (心理的アプローチ) 構成的グループエンカウンター, ティームアプローチ, ティームティーチング, ピア・サポート, PDCA(Plan-Do-Check-Act)</p>
		<p>社会的に重要な支援目標の特定と優先順位を判断し、対象に必要な臨床発達支援を実践できる。</p>	<p>・インフォームド・コンセント・本人の意向・家族の意向・意思決定 ・社会的に重要な支援目標の特定と優先順位の判断 ・ケースフォーミュレーション, エビデンスベーストプラクティス, PDCA</p>